

# 古河歴史見聞録

歴史小説家・永井路子の集大成

## 『岩倉具視―言葉の皮を剥きながら』

幕末・維新といえば誰を思い起こされますか？ 西郷隆盛、坂本龍馬あるいは新撰組でしょうか。たしかに幕末維新を描いた小説は、彼等、いわゆる武士を主人公にしたものがほとんどです。しかしながら、ここに、それまでの幕末維新史に対するイメージに一石を投じた作品があります。公家側から明治維新を眺め、聞き慣れた言葉の皮を剥ぎ取って歴史の核心、真実に迫った作品。

古河市名誉市民の歴史小説家・永井路子先生の最後の長編『岩倉具視―言葉の皮を剥きながら』を紹介したいと思います。

### 構想四十余年、集大成

それまでの歴史小説が扱ってこ



▲『岩倉具視』自筆原稿と毎日芸術賞賞状

なかった時代・人物にスポットを当て、綿密な史料調査と独自の歴史解釈で数多くの傑作を著し、大勢のファンを魅了してきた永井先生。そんな先生が、昭和40年の直木賞受賞直後から実に四十数年ものあいだ構想を温めつづけ、自らの集大成として上梓したのが『岩倉具視』です。

ページを繰るとすぐ永井ワールド全開。単なる岩倉具視の評伝ではなく、岩倉というフィクチャーを通して、見事に明治維新の全貌を浮かび上がらせています。刊行直後から、各メディアで盛んに取り上げられ、第五十回毎日芸術賞を受賞しました。

これだけでも永井ファンには涙目なのですが、なによりも心を打たれるのは、最後の最後まで「小説家」の姿勢が貫かれていること。アカデミズムをリードするほどの史眼を持ちながら決して学者然とすることなく、あくまで小説家として言葉を介して歴史と向き合う……。サブタイトルの「言葉の皮を剥きながら」に込められたそ

の思いが、作中のあちこちからひしひしと伝わってくるのです。

### 執筆の足取りをたどる

ところで、現在、古河文学館ではテーマ展「岩倉具視」〜永井路子の描く幕末維新史〜を開催中(8月20日まで)ですが、その中にちよつと面白い資料があります。『岩倉』の草稿(下書き)に、原稿用紙の右側と左側で違った章を書き進めているような箇所があるのです。思いついた文章の流れを忘れないためだったのでしょうか。ご本人に確認しましたが「はつきりとは覚えていないけれど、たぶん、推測の通りでしょう」とおっしゃっていました。執筆過程において先生がどのような思考をたどったか、そんなことを垣間見る



▲『岩倉具視』草稿



▲毎日芸術賞贈賞式 前列中央が永井先生

ことができる大変興味深い資料といえます。

### 忘れ得ぬ光景

『岩倉具視』といえば、もう一つ思い出があります。毎日芸術賞の贈賞式にご招待いただいたのですが、式の最後、メディア向けの記念撮影の時でした。ちゃっかり撮影させてもらおうと、カメラマン列の端に目立たぬように陣取った小生を、先生は目敏く見つけられました。そして他の受賞者がメディアの方を向く中、ちよつといたずらを思いついたように、こちらに視線を向けてにっこりとうなずかれたのです。本当にチャームングで優しい方でした……。

古河文学館学芸員 秋澤正之

【児童書/生き物】  
どっちが強い!? アフリカウシガエルvsオオムカデ  
スライム ストーリー  
ブラックインクチーム 漫画  
戦う能力の近い生物同士の対戦を大迫力のオールカラーまんがで描くシリーズ。各章の「動物百科事典」では、緻密に描かれたビジュアルとともに生物についての情報を掲載。  
出版社…KADOKAWA

【絵本】  
オムライス  
ケロポンズ 作  
オムライスになるまではそれぞれどんな形だったんだろう? 米、タマネギ、ニンジン、ベーコンといった食材の特徴や、オムライスの作り方を楽しく紹介します。食べ物の大切さを考える食育絵本。  
出版社…主婦の友社

図書館の本棚から

三浦しをん 著  
『キュン』のある毎日は、おおむね幸せです。愛と笑いと妄想に満ちた三浦しをんの日常、ときどき非日常。2012年から2022年の間にいろいろな雑誌・新聞で書いたエッセイをまとめる。  
出版社…大和書房

柚木麻子 著  
苦学生の真央がスーパーマーケットの試食販売で出会ったのは、かつて栄華を誇った山戸家の生き残り、なんでも売れる嘘つきのおばさんだった。彼女が託した宝石箱が、真央の人生を変えていき…。『小説現代』掲載を単行本化。  
出版社…講談社

つつま公民館

【一般書/エッセイ】  
好きになってしまいました。  
三浦しをん 著  
『キュン』のある毎日は、おおむね幸せです。愛と笑いと妄想に満ちた三浦しをんの日常、ときどき非日常。2012年から2022年の間にいろいろな雑誌・新聞で書いたエッセイをまとめる。  
出版社…大和書房

【一般書/小説】  
オール・ノット  
柚木麻子 著  
苦学生の真央がスーパーマーケットの試食販売で出会ったのは、かつて栄華を誇った山戸家の生き残り、なんでも売れる嘘つきのおばさんだった。彼女が託した宝石箱が、真央の人生を変えていき…。『小説現代』掲載を単行本化。  
出版社…講談社



## 幸せの瞬間を支えたい

木下ジェマリーさん 総和南中学校3年生

私の夢は「ウエディングプランナー」になることです。理由は、結婚する2人やその家族の幸せな1日と一緒に作り上げることが素敵だと思ったからです。

ウエディングプランナーの仕事は、幸せの第一歩へのお手伝いをしたり、晴れ舞台を作ったりすることで、人を喜ばせることだと思っています。そのため、今、学校行事の実行委員などを通して、どのようにしたらみんなが喜んでくれるかを考えられるように頑張っています。



わたしの夢